巻頭言

本日はお忙しいところ、お時間を割いて、このシンポジウムにご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私が今のポストにつきましたのは2014年4月ですが、それから1年間に2回ほど、このセンターでは割と大がかりなシンポジウムをやってきています。今回は、たまたま半日間ですが、通常はだいたい丸一日のシンポジウムをしています。夏は、皆さまご承知のとおりいろいろなイベントもありますので会場等も非常に混雑していますが8月6日の前後に、もう一回は秋、あるいは今回のように少しずれこんで冬の早い時期にやっております。そういう意味では、全体では相当の回数を重ねてきております。

秋に開催するシンポジウムは3回目になりますが、これには一つの共通テーマを持ってやってきています。それは、この混迷する世界の中にあって、国際機関、特に国連その他の主要な国際機関がどういう役割を果たせるのか、国際機関をどうやって強化していくかということです。それも毎回違った角度から取り上げてきています。

今回は「移民・難民」、その他それを通じての人権、人道問題に焦点を当てて、議論をしていきたいと思っております。後ほどご紹介があると思いますが、今回はスピーカーとして3人の高名な先生方にお話をしていただき、終わってから、私がモデレーターとして、若干の司会兼参加をするという形で、檀上の人たちのみならず、皆さんからも自由にご質問をいただいて、その質問にも答えながら進めていきたいと思っております。

毎回、同じことを繰り返しておりますので、また言っているなと思われるかもしれませんが、このシンポジウムが成功するかしないかは、もちろん主催者である私たちに過半の責任があります。そして、スピーカーの方々にもそれなりの責任があります。さらに、皆さんも責任がないということはありません。良い質問をしていただけることによって、会全体がいい意味で挑発されて議論が次の段階に進みます。これをもって、成功したかしないかが決まると私は考えます。私がいつも申し上げるのですが、我々が一方的に、ここからマイクを使って皆さんに語りかけるのではなく、フロアからも積極的に手を上げ、声を上げていただいて、両方の方向で話が進められればと思っております。

先ほど申し上げましたように、本日のシンポジウムは半日ですので若干慌ただしいかもしれませんが、その分だけ濃密な議論ができればと思っております。

今日はお越しいただきまして誠にありがとうございました。

広島大学　平和科学研究センター長
元国際連合日本政府常駐代表　特命全権大使
西田　恒夫